

I 自然公園等利用者数の概要

1 自然公園利用者数の推移

図 I-1・表 I-1 は、昭和 25 年から令和 2 年までの国立公園、国定公園及び都道府県立自然公園の利用者数を示したものである。

自然公園全体の利用者数をみると、昭和 50 年から昭和 58 年は、おおむね横這いの状況であった。昭和 59 年から徐々に増加の傾向を示し、平成 3 年には 10 億人を超えた。その後は減少傾向にある。令和 2 年の利用者総数は、前年に比べ 37.9% 減の 5 億 5,435 万人であった。

年間利用者数を各公園の種類別にみると、34 の国立公園利用者数が 2 億 1,849 万人（対前年比 40.8% 減）、57 の国定公園利用者数が 1 億 8,374 万人（同 47.7% 減）、311 の都道府県立自然公園利用者数が 1 億 5,211 万人（同 35.6% 減）となっている。

2 利用者数の多い国立公園

表 I-2 は、全国 34 の国立公園のうち、利用者数の多い 10 公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かったのは富士箱根伊豆の 7,430 万人で、国立公園利用者数全体の 34.0% を占めており、以下、瀬戸内海 2,490 万人、上信越高原 1,511 万人の順となっている。

これらのうち上位 10 公園についてみると、その合計利用者数は 1 億 7,350 万人となり、国立公園利用者数全体の 79.4% を占めている。

なお、上位の国立公園は、都市部から比較的交通の便の良い場所に位置している。

3 利用者数の多い国定公園

表 I-3 は、全国 57 の国定公園のうち、利用者数の多い 10 公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かった国定公園は、琵琶湖の 2,342 万人で、国定公園利用者数全体の 12.7% を占め、以下、玄海 1,588 万人、金剛生駒紀泉 1,215 万人の順となっている。

これらのうち上位 10 公園についてみると、その合計利用者数は 1 億 592 万人となり、国定公園利用者数全体の 57.6% を占めている。

なお、上位の国定公園は、国立公園と同様に都市部から比較的交通の便の良い場所に位置している。

4 国立公園、国定公園利用者数の増減

(1) 利用者数が増加した国立公園

34 の国立公園中 1 公園のみで前年と比較して利用者数の増加がみられた。増加がみられたのは、足摺宇和海（対前年比 111.8 増）で、新型コロナウイルス感染症の影響により、その他の国立公園では利用者数が減少した。

〔表 I-4-(1) 参照〕

(2) 利用者数が減少した国立公園

利用者数が前年と比較して減少した国立公園は33公園で、減少率が高かった3公園は、順に南アルプス（対前年比99.1%減）、白山（同61.3%減）、利尻礼文サロベツ（同58.1%減）となっている。

〔表I-4-(2)参照〕

(3) 利用者数が増加した国定公園

新型コロナウイルス感染症の影響により、57の国定公園全てで利用者数が減少し、増加した公園はみられなかった。

〔表I-4-(3)参照〕

(4) 利用者数が減少した国定公園

利用者数が前年と比較して減少した国定公園は57公園で、減少率が高かった3公園は、順に大沼（対前年比65.6%減）、北九州（同57.6%減）、越後三山只見（同54.8%減）となっている。

〔表I-4-(4)参照〕

5 利用者数の多い都道府県立自然公園

表I-5は、全国311の都道府県立自然公園のうち、利用者数の多い上位10公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かった公園は水郷（三重県）の834万人であり、以下、大宰府（福岡県）の626万人、日本平・三保の松原（静岡県）の576万人となっている。

II 自然公園利用者数調

この調査は、暦年毎の自然公園の利用者数を把握するため、都道府県からの報告に基づいて集計したものである。〔表II-1～8参照〕

なお、国立公園内におけるビジターセンター等施設の入館者数は、主に環境省地方環境事務所からの報告によりとりまとめたものである。〔表II-9参照〕

III 長距離自然歩道利用者数調

長距離自然歩道は、優れた自然環境を有する自然公園や文化財などを結ぶ長距離にわたる歩道で、自然や歴史などを訪ねることにより、健全な心身を育成し、自然保護に対する理解を深めることを目的としたものである。

この調査は、自然公園と同じく都道府県からの報告に基づき、暦年毎の各長距離自然歩道の利用者数を集計したものである。

令和2年の長距離自然歩道利用者数は5,053万人であり、対前年比32.1%減となっている。各自然歩道別に利用者数をみると、北海道18万人（対前年比46.8%減）（※）、東北570万人（対前年比41.0%減）、東北太平洋岸は今年度の報告なし、首都圏584万人（同25.7%減）、東海464万人（同40.9%減）、中部北陸691万人（同31.5%減）、近畿1,716万人（同29.2%減）、中国227万人（同

31.8%減)、四国218万人(同13.5%減)、九州565万人(同33.4%減)となっている。

〔表Ⅲ－1～10参照〕

(※)北海道自然歩道は令和2年現在整備中であり、利用者数は供用を開始している一部のもの。

IV 参考

1 新宿御苑入苑者数

この調査は、国民公園のうち新宿御苑について新宿御苑管理事務所の報告により、年度毎の入苑者数を取りまとめたものである。

令和2年度の入苑者数は約81万人(対前年比62.8%減)となっている。

〔表Ⅳ－1参照〕

2 休暇村利用者数

この調査は、(一財)休暇村協会の報告により、年度毎の利用者数を取りまとめたものである。

令和2年度の休暇村の利用者数は約217万人(対前年比39.6%減)となっている。その内訳をみると、宿泊利用者数は約84万人(同34.2%減)、その他の利用者数は約132万人(同42.6%減)であった。

〔表Ⅳ－2参照〕

3 国民宿舎利用者数

この調査は、(一社)国民宿舎協会(平成13年度分までは各都道府県)の報告により、年度毎の公営の国民宿舎の利用者数を取りまとめたものである。

令和2年度の国民宿舎の利用者数は約115万人(対前年比56.4%減)となっている。その内訳をみると、宿泊利用者数は約38万人(同51.9%減)、休憩利用者は約78万人(同58.3%減)であった。

〔表Ⅳ－3参照〕

4 全国温泉地宿泊利用者数

この調査は、各都道府県の報告に基づき、年度毎の温泉地の延べ宿泊利用者数を取りまとめたものである。

令和2年度における延べ宿泊利用者数は約7,659万人(対前年比39.5%減)となっている。

〔表Ⅳ－4参照〕

5 令和2年の気象概況

<天候の概要>

令和2年の天候の特徴

- ① 気温の高い状態が続き、年平均気温は全国的にかなり高かった。東日本では平年差+1.2℃と、1946年の統計開始以来、最も高くなった。
- ② 年降水量は、西日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった。北日本太平洋側、東日本日本海側で平年並だった。
- ③ 年間日照時間は、東日本太平洋側、西日本で多かった。一方、北日本太平洋側で少なかった。北・東日本日本海側、沖縄・奄美で平年並だった。
- ④ 冬は、全国的に暖冬で、東・西日本で記録的な高温、日本海側で記録的な少雪となった。
- ⑤ 「令和2年7月豪雨」など7月は東・西日本で記録的な大雨と日照不足になった。梅雨明けは沖縄地方を除く各地方で遅くなった。

冬（平成31年12月～令和2年2月）

- ① 気温は、東日本以西ではかなり高く、特に東・西日本で記録的な暖冬となった。北日本でも高かった。
- ② 降水量は、北日本日本海側でかなり少なく、東日本日本海側と沖縄・奄美で少なかった。一方、西日本日本海側ではかなり多く、西日本太平洋側では多かった。北・東日本太平洋側では平年並だった。
- ③ 降雪量は、全国的にかなり少なく、北・東日本日本海側で記録的な少雪となった。
- ④ 日照時間は、沖縄・奄美でかなり多く、北・東日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側でかなり少なく、西日本で少なかった。北日本太平洋側では平年並だった。

春（令和2年3月～5月）

- ① 気温は、北日本でかなり高く、東・西日本で高かった。沖縄・奄美では平年並だった。
- ② 降水量は、北日本と沖縄・奄美で多かった。東・西日本では平年並だった。
- ③ 日照時間は、東日本太平洋側と西日本でかなり多く、東日本日本海側で多かった。北日本と沖縄・奄美では平年並だった。

夏（令和2年6月～8月）

- ① 気温は、東日本と沖縄・奄美はかなり高く、北・西日本では高かった。
- ② 降水量は、「令和2年7月豪雨」など、全国各地で大雨が発生した。このため東・西日本と沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側では多かった。北日本太平洋側は平年並だった。
- ③ 日照時間は、東日本日本海側と沖縄・奄美で少なかった。東日本太平洋側と北・西日本では平年並だった。

秋（令和2年9月～11月）

- ① 気温は、北日本と沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。西日本で平年並だった。
- ② 降水量は、9月上旬の台風第10号等の影響で西日本太平洋側で多かった。一方、北日本太平洋側、東日本日本海側、沖縄・奄美で少なく、北日本日本海側、東日本太平洋側、西日本日本海側で平年並だった。
- ③ 日照時間は、北日本で少なく、東・西日本日本海側で多かった。東・西日本太平

洋側と沖縄・奄美で平年並だった。

(気象庁ホームページ 報道発表資料より抜粋)